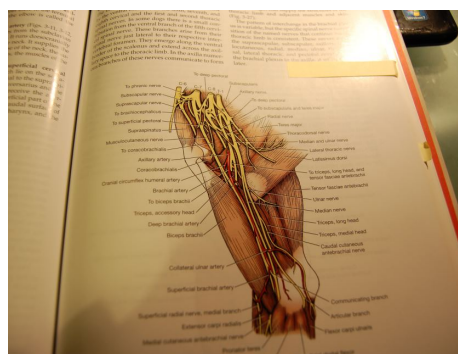


# Vet Student In Australia

オーストラリアの獣医学生にインタビュー！

文責:大阪府立大学3年 佐分洋平



## 松井アキヒロさん

今回インタビューさせていただいたのは現在オーストラリアのアデレード大学で獣医学を学んでいる松井アキヒロさんです！現在3年生ということもあり自分と年が同じでかなり親近感をもってインタビューさせていただきました。日本にいと、なかなか海外の獣医学生と触れ合う機会がないので、これを機に彼ともっと交流を深めて行きたいです！

## まずは軽く自己紹介をお願いします。

豪州アデレード大学獣医学科3年の松井アキヒロと申します。日本の小学校を卒業後12歳でオーストラリアの現地校に留学し、高校を卒業後、小学生の頃から夢んでいた獣医学科に進学。一緒に暮らす動物達と共にちょっと変わった毎日を満喫しています！

## なぜ獣医を志したのでしょうか？

物心がついたときから様々な生物を飼育し、同時にその死を看取ってきました。死因のはっきりしないものや寿命を全うできなかったものを見ていくうちに自分の力や知識不足に不甲斐ない気持ちになっていった結果、生物に関して一番知識を得られるであろう獣医学に興味を持ち、同時に声なき命を一つでも多く救い、また最良の環境を提供したいと思い立ちました。

## オーストラリアの獣医学は日本と比べてどうなんですか？

日本の獣医学はおろか中学も高校も知らないなので比較は難しいですが、大学で飼育している動物数は圧倒的にオーストラリアのほうが多いです。畜産国家でありさらには2世帯に1匹は犬猫がいるとされていますので研修も充実しています。一方で、研究ベースの分野においては日本が一枚上手だと知人の獣医師は話しています。ちなみに基本的な知識は犬と馬、反芻動物について学びますが、解剖実習で使う検体は主にグレイハウンドと羊を主体に、馬、カンガルー、コアラ、ハリモグラ、イリエワニやペリカンに至るまで変わった生物が目白押しです。

## 海外に来て苦労したことを教えてください。

とにかく英語です。日本の小学校を卒業後13歳で渡豪していますが、最初の1年間はとにかく英語が理解できず地獄を見ました。小学1年生の頃から週2~4日は英会話に通っていましたが全く太刀打ちできず、夜は枕を濡らす毎日でした。英語を克服した後は高校での成績争い、そして大学進学後は英語とは別の言語として扱いたくなるような「解剖学用語」に苦しめられました。しかし同時に、秒刻みで進化していく獣医学という分野において公用されている英語を克服してしまえばこれほど便利なものはありません。

## 現地の野生動物保護についてどう思いますか？

動物愛護と野生動物保護に関しては世界でもトップレベルだと思っています。この広い国土と大量の野生動物を、税金、寄付金とボランティアだけでこのレベルまで支えられている事実はすごいと感じます。日本の6分の1しかいない国民の野生動物に対する関心は非常に高く、獣医だけではなく国全体が野生動物を思いやり、助けたいこうと一丸となっている国です。しかし一方で、その圧倒的な野生動物の数にはどうしても人手が足りず、まだまだ向上の余地は沢山あると思っています。

## 最後に将来の夢について教えてください。

まずは無事に卒業することが将来の目標になりますね（笑）。今のところの目標は臨床獣医師ですが、まだ3年残っていますのでハッキリとしたことは決めておりません。馬は人気なので他に譲るとして、小動物も産業動物も考えていますが、まだまだ先の

話な気がしますのでオージーのNo Worries 精神でゆったりと自分の進みたい道を見つけてたいです。

### 編集後記

小学校卒業後にすぐに渡豪したというアキヒロさん、しかもオーストラリアでも最難関といわれている獣医学部に合格し、今も夢に向けて勉強しているという強者でした！自分も見習いたいと思いつつ、同じ年の日本人が言葉も違う海外で獣医学を学んでいることに、驚きと一種の尊敬の念すら抱きました（笑）。また彼は大の爬虫類好きであり家の中にヘビやらカエルを飼っているのだそうです、恐ろしい。今度オーストラリアに行く機会があれば是非お会いしたいと思います！またブログもやっているらしいのでそちらも要チェック！ <http://ameblo.jp/happyguppyaki/>